

湘友會報

卷 頭 言

母校湘南は創立第十五周年を迎へて、今や正に第十六回目的のゴールに近しか、つてゐる。依然として意氣旺んだ、益々元氣だ。いさゝかの疲れも見せない。世人は不思議にも之を不思議がる。一國の歴史に起伏があるが如く、一校の運命にも消長のある事と定めて見るからだ。然るに母校湘南は此の常例を破つて向上の一路を走り来り又邁らんとしてゐる。奇蹟ではない。吾等の敬慕する偉大なる「親父」赤木校長先生の存在なる限り湘南の隆盛には殆束の不安もない。且諸先生の熱と一致協力がある。又吾等千三百の卒業生も精神的支持に於て、他校のそれと比して決して劣るものではない。吾等社會にあつてのそれらの職場は多様

であらう。吾等の人生行路は未だ短しと雖も既に多難なるものもあつたらう。或ひは運命に恵まれて機嫌したのものもあらう。悲喜その何れに不拘吾等は永遠に追はるゝ事無き無限道程の中に一日として母校湘南を夢見ざるものがあらうか。唯吾等は純なる世界としての學舎の想ひ出に耽けるのみならず、堅實なる社會人として力強く、生き、働き、考へ、湘中晩の中に含まれたる理念の擴充に依つて吾等の生活を豊にし、自己に、家に、國に、神に盡すところが無ければならぬ。千三百の同窓、數も多しとは云へない面も多きはまだ別だ。併し青年日本への優秀なる選手として吾等の使命は重い。アールは遙かだ。諸君大いに自勵し、協力して働かうじやないか。

學 館 育 成

吾等希望の体育館がブーム臨に初夏の陽光を浴びて燃然と出現した。豪放だ。皆が思はず叫ぶ。「幾らだ高さは」「大抵の人は金から聞いて行くが、君は珍らしいね」「金は後から聞くよ」「高さはね三十六尺だ」「練習の大佛壇より二尺低いね、時に建坪は」「二百二十坪」「疊の敷では四百四十、えいと三十三間堂に比べると」「おいおい君の比較の對象は妙に南古的だが体育館そのものとして見たらどうだ」「うん、それなら今日の朝日に出てゐたな」「白雲の体育館、湘南中學に完成。七月五日落成式。本年二月以来工事中であつた湘南中學校体育館は晴ど工事完了し七月五日午前十時から落成式を挙げる。同体育館は職

員・生徒・卒業生（第七回以降卒業生の記念事業費）父兄有志の賛成によつて贈られ建築費三萬七千圓、器具設備費三千八百圓といふ中等學校としては全國に誇るに足るもの建坪二百廿坪、高さ三十六尺で諸設備は種々考案設計中で落成式後となるが、バスケツト、バレー、室内競技のコートや吊橋、窓椅子、助木、併行棒等、体操用具が設備される。六月廿六日の東京朝日によ

り。
× × ×
時に當日は卒業生全體を招待する譯に行かないので湘友會幹事が代表で招ばれることになつてゐる。この体育館落成に依つて單に母校生の体育向上が期待されるのみならず、躍進日本の近代スポーツの發達と國民保健には斯くの如き設備の緊要なることが實踐されるであらう。
(湘南中日より參照)



體 育 館 透 視 圖

先生軍對第九回卒業生

有志チーム蹴球試合

五月三十日土曜日、我等第九回卒業生は慶大體育科及び高商在學の有志諸君の主唱により、同志を糾合し兼ねてより、同家の鳴き先生チームと蹴球のゲームを舉行した。接戦激合、勝敗の歸趨容易に決しなかつたが、延長戦の末遂に二對一で勝利は生徒側に歸した。だが此の日先生軍もその個々の名に背かず實に正々堂々よく戦ひ數字上のわづかな差こそあれ試合は將に互角であつた。「前半」兩軍の意氣軒昂勇猛又落々、試合開始の審判なるや兩軍必死の攻防戦を展開したがやゝあがり氣味のため層々のチャンス惜しい所でのにならず、前半十五分頃生徒軍G、H、Cにパスすれば、得意の個々シュートを放ちG、K、Hも順なつて躍躍する所し、すかさず猛然とチャードし生徒軍重傷一点を先取す。その後先生軍奮起し層々生徒軍ゴールを脅かしたがG、K、D、Hの微量

の防禦陣に続けられ無益、生徒側も層々チャンスあつたが眞流現ルババツタ等の大業の奮闘に阻まれものにならず前半は終に二對一で終る。

「後半」此の日や、強り氣味であつたが前半の終り頃より次第に陰鬱となり遂に後半に到つて雨となる。だが兩軍間などに静易せず、それどころかへつてそのために元氣盡し、試合は遂々高調になる。後半十分頃先生側の押九ホッ

ード、小陰ながらゴーストと平き香川センター、梅津タインダ等猛然と改め立て遂に生徒側のゴールを陥し入れ此所に一對一の個点となる、生徒側如何にしても勝たんものと思ひ必死に攻め寄せるが加賀屋レフトハーフ横バツタ、鈴木パー等の整然たる防禦の前に如何ともする能はず。その間先生軍も押九ホッード十八番のスピーディーな攻撃を敢行するが無傷、遂に同点の上、後半を終る。

兩軍協議の末十分づゝの延長戦を行ひ難題を決することにした。兩軍や、破れを見せ

て来たが流石に生徒軍若い所を發揮力なバフと優勝軍の如きホッードとを以て攻撃陣に一点を奪取、二對一となり試合はその、も持ち越され生徒軍高らかに勝利の凱歌を奏すれば先生軍又無念の涙を吞む。

終つて一回職員室にて茶菓を御馳走になり方振りで諸先生の格氣前を拜禮、暮れ行く初夏の日を心行く意味はいちしく解散。

尚此の日のレフュアリーは金持先生往年の鬼生徒室慶石に嚴格な前を吹くとは口がなき生徒側の後目頭。

終りに筆をおくにあたつて先生軍の揚土重來を期されんことを祈る。(メムパー紙面の都合で省略) (内川生)

編輯 後記

初めの決定は、新入會員氏名と會員移動消息だけお知らせしようと思つてゐたのが、色々な都合でよしあしは別として、こんな体裁になつて了れしかつたが、その記事が無

いので蛇足を編輯子に加へたものもある。失寶があつたら御寛容の程を。

母校に關する記事は大体封の「湖中だより」に使つて御覽下さい。そして、母校の各方面に於ける飛躍を心から祝さうではありませんか。更に會員若川進彦君、酒田屋正一郎君の母校入りに乾杯し、聲援を送らうではありませんか。

會長泰木先生の御多忙、御健闘振りは、近年益々御壯健とは云へ、よくあんなにまあいと思はれる位であります。「先生どうぞ御自愛を、少くとも吾等千三百の卒業生の爲にも。」

實は体育館建設の成案のなる日。たしか十一回生の同期合の新に「育英報告」の色紙を頂いたのがあつて、本誌の爲に木版屋に彫らせたとこゝろ不幸版屋の失政から、本誌を彫ることが出来なかつた事を先生並びに諸君に御詫言すると同時に編輯子具皆崇謝してゐる次第。

願字は佐野梅溪先生に御願ひしました。木版が少々不出來で残念でしたが誌上を借りて厚く御禮申上げます。又富士演習出發前の御多忙の新、御親切な御注意を賜つた井口先生にも深く感謝いたします。

本年の湘友會總會は、やがて幹事會で決定されると思ひますが、例年のことから考へると多分七月中旬乃至末の日曜あたりになるのではないかと思ひます。何れ御案内をいたしますが、多數御出席下さい。そして新築の体育館をも拜見したいものです。

體育館落成式に八幡宮司さんの御好意で時事を行ふことになつたが、相原路路君(第二回卒)がその準備にやつて来て何かと世話をやいて居られた。こんな風に何かと湘友會員の御手傳ひが母校を助けて行く時代がやがて來るかと思ふと嬉しい。

終りに會員諸君の御愛へんことを切望します。

「風塵の飛び行く方に光あれ」